



トピックス…①

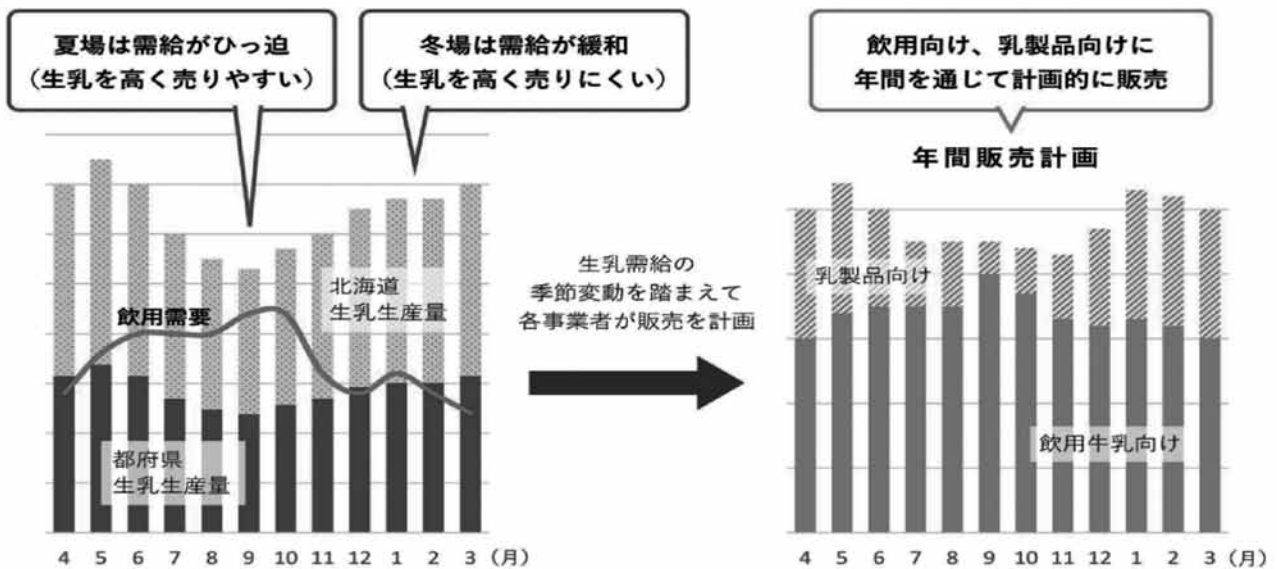
生乳の需給調整について

— 酪農業の持続と将来世代のために、

あらためてご理解をお願いします。 —

【需給調整を円滑に行うために】

生乳は、日々・季節的な飲用需要の変動に応じて生産を調整することができません。このため冬場の不需用期には、指定生乳生産者団体（指定団体）では、全国的に協調し、保存の効く脱脂粉乳やバター等の乳製品向け量を拡大する等の需給調整を行っています。ただ、それらの加工原料乳の乳価は生乳生産費を下回っていることから、畜産経営の安定に関する法律（畜安法）では、生産者補給金を交付することで、需給調整を円滑に行いやすい環境を整備することとしています。



資料：農林水産省「酪農経営の安定のための生乳取引に向けて」より抜粋

【自主流通生乳量の拡大による需給への影響】

近年は、生乳の全量又は一部を指定団体以外の事業者の販売する自主流通生乳量が拡大しており、特に飲用牛乳向けの販売が目立っています。

この拡大は、付加価値生産を促すという点では、酪農家の所得向上へつながることも期待されていましたが、夏場の牛乳の需要期に潤沢に生乳供給をするため、逆に不需用期には供給過剰となってしまう、結果、廉売競争につながってきているとの指摘が、業界内外から上がっています。

こうした状況が続くと、近い将来、以下のような課題が生じ、酪農経営が持続できず、将来世代に（日本の）酪農を引き継いで行くことが困難になって行くことが懸念されます。

- ① 不需用期における一部地域での生乳の廃棄
- ② 廉売競争による、全国的な牛乳の小売価格、飲用乳価の低下



【適正な価格形成の実現のためにも需給の安定は重要】

現在、飼料価格等、あらゆる資材価格の高騰が生乳生産費を増大させており、農林水産省では、新たな「食料・農業・農村基本法」の下、「食料の持続的な供給に要する費用の考慮」について法制化も視野に入れた検討を行っています。

しかし、現在の自主流通生乳量が拡大するこの状況が続き、生乳需給が乱れ、飲用市場における価格競争が激化して行った場合、適正な乳価形成は、より困難になって行くことが想定されます。酪農家の皆様におかれましても、

- ①生乳の過度な価格競争及び価格変動は、酪農業の持続性を阻害する懸念があること
- ②酪農家及び生産者団体には、将来世代に（日本の）酪農を引き継いで行く責任があること

そのためにも、生乳の需給安定は重要であることにご理解を頂きますよう、よろしくお願い致します。



英国に見るMMB（日本の指定団体に相当する組織）の解体による 乳価交渉力の低下

英国では、法律に基づき、地域の酪農家の生乳出荷を一元的に管理するMMB（指定団体に相当）が地域毎に設置されていましたが、1994年に解体されました。

その後、任意組織である酪農協が設立されましたが、大手スーパーと連携した多国籍乳業メーカーとの直接契約が増加し、価格交渉力が低下し、混乱しました。

乳業・流通資本の寡占化が進む一方で、酪農協組織の再編、酪農家の再結集等の動きもありますが、なかなか進んでいません。

“MMB解体による効果は産まれていない。そうした経験を踏まえると、現在でもMMBが望ましい仕組み。”

ピーター・ドーンソン氏（DairyUK*政策部長）*英国を代表する乳業団体

“MMB解体以降、国際市場との連動が強まり酪農は極めて不安定に。当時、英国の若い酪農家は、新しい変化に対して希望を抱いたが、結果的には、小売業の強い影響を受ける構造になった。”

マンセル・レイモンド氏（酪農家、ヨーロッパ農業者連盟酪農委員長）

“約20年間の経験を踏まえると、MMBは安定したシステムで、可能なら今からでも戻すべき。「変化に極めて弱いという酪農生産や生乳流通に特有の構造的課題」に対処できなくなる。”

ドナルド・タイソン氏（酪農家、農家民宿経営）

資料：「英国の生乳流通の現状と課題～MMB解体後の構造変化」

2016年11月30日 平成28年酪農乳業国際比較研究会

一般社団法人Jミルク

